

平成26年度自己評価計画書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 共通教科と専門教科の指導連携により学習意欲を喚起し、分かる授業への工夫改善に努め学力の向上を図る。	① 授業でICT機器、視聴覚教材を効果的に活用し、学習内容の理解を促進する。また、生徒自身がICT機器を活用する場面を設定し、言語活動の充実を図る。	教務課	学習意欲の喚起のための方策としてICT機器の活用を試みる授業が増えつつある。さらに、ICT機器の特性を理解し、分かる授業に向けて活用方法について検討する必要がある。	【努力指標】 学習意欲の喚起に繋がるよう、ICT機器、視聴覚教材が授業中に活用されている。	「授業においてICT機器、視聴覚教材を活用している」の肯定評価の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	C以下の場合、活用方法、研修内容を再検討する。	職員によるアンケートを7月・12月に実施する。
	② 学習意欲を喚起し学力の向上を図るため、学習形態や指導方法、指導内容を精選する。	教務課	昨年度の授業評価結果で「授業の分かりやすさ」が他のアンケート項目と比較し低かった。	【満足度評価】 分かる授業への工夫改善がされている。	「授業は分かりやすく工夫されている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満である。	C以下の場合、指導方法や指導内容を再検討する。	生徒による授業評価を7月・12月に実施する。
	③ 教科間の情報交換を密に行い、学力の向上を図る。	共通教科 専門教科	昨年度「教科間の指導連携をしている」の肯定評価が53.5%だった。共通教科と専門教科の指導連携を一層強化する必要がある。	【努力指標】 指導連携により学力の向上が図られている。	「教師間での指導連携をしている」の肯定評価の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	C以下の場合、教務委員会を開催し、教科間の指導連携について協議する。	職員によるアンケートを7月・12月に実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 専門教科指導の充実とブランド化に向けた質の向上に努め、看護師・介護福祉士国家試験100%合格を継承する。	① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	衛生看護科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 国家試験演習で専門科目の偏差値42未満の生徒が0である。	偏差値42未満の生徒が A 0人 B 2人 C 4人 D 5人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
	② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	専攻科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 国家試験演習で専門科目の偏差値40未満の生徒が0である。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
	③ 施設実習において実習指導者と連携を図り、実習に対する意欲や協調性を高める。	健康福祉科	施設利用者との関係作りはできるが、施設職員・関連職種との関係作りができない生徒がいる。	【成果指標】 (1,2年生) 実習評価の意欲・協調性の項目の評価が4段階中3以上である生徒の割合が90%以上である。	実習評価の意欲・協調性の項目の評価が「3以上」である生徒の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 である。	(1,2年生)評価が2以下の場合、対象生徒に対して個別面談を行う。	実習終了後評価する。

	3年生には知識の確実な定着のための個々に合った指導方法を工夫する。		国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない。	(3年生) 模擬演習の得点率が70%以上である。	(3年生) クラスの平均得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	(3年生) C以下の場合、対象生徒に対して個別指導と勉強方法の見直しを行う。	全生徒が一定レベルに達するまで指導を継続する。
--	-----------------------------------	--	-----------------------------	--------------------------	---	--	-------------------------

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 地域の医療・福祉を支える人材確保に向け、本校が果たす役割の啓発に努め、志願者の開拓に取り組む。	① 地区説明会、個別説明会等の開催、公開授業の実施、ホームページの内容充実により、本校への理解を深める。	総務課 教務課	看護師・介護福祉士の必要性について一定の理解が得られているが、看護・福祉への関心を志願に結びつける工夫が必要である。	【成果指標】 昨年度より志願者数が増加している。	各科の推薦・一般それぞれの志願者数が昨年度より A 大きく上回った。(20%以上) B 上回った。(10%以上) C 変わらなかった。 D 下回った。(10%以上)	C以下の場合、広報活動の方法の見直しをする。	年度末に評価する。
	② 小・中学校への出前授業や本校での交流学习を継続発展させる。	衛生科 看護科 健康福祉科	医療・福祉の関係機関では本校の理解が深まってきているが、小・中学校での理解は低いようである。	【成果指標】 小・中学校への出前授業や本校での交流学习の実施回数が増加する。	小・中学校への出前授業や本校での交流学习の回数が A 20回以上 B 15回以上 C 10回以上 D 10回未満 である。	C以下の場合、情報提供の強化を行う。	目標回数が、年度末であるため、前期では半数以上を目標とする。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 部活動や生徒会活動等への積極的参加を図り、看護や福祉の道を志す生徒にふさわしい人間力を育成する。	① 部活動の積極的な参加を推奨し、意欲、忍耐力、規範意識を養成する。	生徒会	部活動に対する積極性がより必要である。	【成果指標】 校外実習日以外の活動日の参加状況を数値化する。	アンケートにて、部活動に積極的に参加できた生徒の割合が A 90%以上 B 70~90%未満 C 50~70%未満 D 50%未満	CまたはDの場合、参加率の低い生徒に個別指導を行う。	7月・1月にアンケートを実施する。
	② 縄跳び(二重跳び)の実施により、自己記録の更新に努めながら、諦めない態度や体力の向上を図る。	体育科	個人の能力(技術・体力)の差が大きい。	【成果指標】 挑戦意欲を持続することができる。	二重跳びが連続30回以上できる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	CまたはDの場合には、個別指導を行う。	10月以降、毎月評価する。
	③ 挨拶をする習慣を身につける。	総務課 生徒会 生徒指導課	挨拶が十分でない生徒がいる。	【成果指標】 挨拶が自然にできる。	保護者アンケートで A ほとんど全ての生徒が挨拶している。 B 多くの生徒が挨拶している。 C 挨拶している生徒は半数程度。 D 挨拶している生徒は半数以下。 A+Bの割合が95%以上である。	A+Bの割合が95%以下の場合、集会などを通して注意喚起をうながす。	PTA総会、7月と12月の保護者懇談の3回アンケートを実施する。